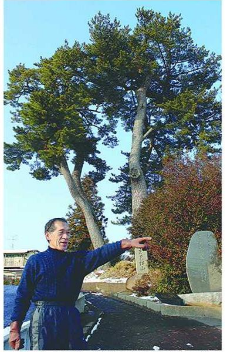
2013年01月21日 中日新聞 朝刊 37頁

備える 3.11から

第61回 災害地名

津波被災地に「浜」「浮」

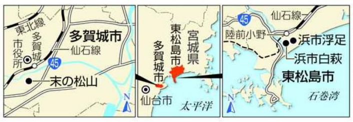
宮城県地名研究会会長の太宰幸子さん（六九）は、過去に津波や洪水、地盤崩壊などがあった恐れがある「災害地名」を調べ、住民が関心を持つよう呼びかけている。一見、意味のないような地名に歴史的背景があったり、逆に地形の特徴を表す地名が変わっている場所も。地名の由来はさまざまで、必ずしも地形を反映しているとは限らないが、自分が住む地域の「危険度」を考えるきっかけとなる。（相坂穣）＝❶面参照


東日本大震災の津波を免れた「末の松山」。池田皓さんが清原元輔の和歌について語った＝宮城県多賀城市八幡で

東日本大震災で約千百五十人が犠牲になった宮城県東松島市。その南部に大字「浜市」、小字「浮足」という地区がある。密集した家々の大半は津波に流された。「浜は海辺を示す代表的地名。さらに細かく地名を見ると特徴がより分かる」と太宰さん。「ウタリ」は古くは「足が浮くような水気を含んだ低地」という意味があり、浸水しやすい地域という。

▼知っていれば

海岸から一キロの浮足地区に住んでいた主婦大友泰子さん（五三）も自宅を流された。「家がぎっしり立っていたから海は見えなくて。こんなに近いと思わなかった」。一九六〇年のチリ地震津波では三〜四メートルの波が海岸を襲ったが、自宅には届かなかった。



先人の警鐘 避難に役立った伝説も

大友さんや夫は外出中で無事だったが、隣に住む妹の菱沼愛子さん＝当時（四四）＝は自宅で亡くなった。「私や夫も家にいたら逃げずに死んでいたと思う」。調査活動中の太宰さんから地名の由来を聞き、涙声で話した。「意味を知っていたら、もっと多くの人が高台に逃げて助かったでしょうね…」

浮足の隣、白萩地区も海や水に関係ない地名のようだが、シロは「真っさらになる」、ハギは「表土がはがされる」特徴を指すことがある。「たびたび津波に遭ってきたのでしょう。今回の津波でも、まさに家がはぎ取られ、真っさらになった」。住宅が軒並み流された白萩地区で太宰さんがつぶやいた。

土地をめぐる伝説が避難に役立ったケースもある。

宮城県多賀城市に海から一・五キロ離れた旧跡「末の松山」がある。周辺より十メートルほど高い小山に数本の松が並び、清少納言の父親で平安時代の歌人清原元輔が歌ったとされる和歌がある。

「契りきな　かたみに袖をしぼりつつ　末の松山　波越さじとは」

意味は「末の松山を波が越すことがないように、二人の恋は永遠で心変わりしない」。明治時代の地理学者・吉田東伍は、平安前期の八六九年に三陸沖を襲った貞観地震の津波が末の松山まで届かなかったことに由来している、と推測している。

▼和歌で命拾い

末の松山の近くに住む池田皓さん（六七）は震災発生時、港にいたが、すぐ自宅へ避難した。「波越さじ、の伝説を聞いて育ったおかげで命拾いした」。わずか一メートル低い隣の家まで浸水したが、自宅は無傷だった。

ただ、太宰さんは「末の松山は百人一首で有名なので受け継がれてきたが、意味が分からなくなったり、名称が変更された場所も多い」と指摘する。

元教師の太宰さんは三十年近く地名の研究に取り組む。被災地では「浜」や「船」「波」「浦」など以外に「釜」「黄金」「鶴」など、住民も意味を知らない災害地名とみられる場所が多かった。津波でがれきの山となった多賀城市の栄地区の一部は、江戸時代は水が引きにくい地盤を示す「沼田」という地名だった。海辺の農村が近代化で宅地や工業地帯として繁栄し「サカエ」に変わったという。「災害地名が『聞こえの良い』地名に変えられた例は少なくない」

太宰さんはこれらの地名の解説をまとめ、昨年末に「地名は知っていた」と題して出版。「先人が警鐘を鳴らした旧地名をヒントに、自分の住む土地の地盤や地質を調べ、災害に備えるきっかけにしてほしい」と訴える。

津波で住宅地が根こそぎ流された「白萩」地区。太宰幸子さんが「地名通り、真っさらにはぎ取られた」と語りながらカメラを構えた＝宮城県東松島市浜市白萩で

津波被災地にみられる隠れた「災害地名」

地名	意味	被災地の該当例（いずれも宮城県）
•シオ（塩、汐）	▶塩は海水の意味で海辺	塩田（亘理町）
•カマ（釜）	▶海水を煮詰めて塩にした所	釜谷（石巻市）
•スカ（須賀、管）	▶もともと砂浜や浜堤の跡	西須賀（山元町）
•コガネ（黄金）	▶黄色い砂に覆われた所	黄金町（女川町）
•ソネ（曽根）	▶小石の混じった湿地	藤曽根（岩沼市）
•クマ（隈、熊）	▶川が曲流して氾濫しやすい所	隈崎（亘理町）
•ツル（鶴）	▶鳥のツルではなく水の流れを示す	鶴ケ浦（気仙沼市）
•オリ（折）	▶地震で折れ曲がる崩壊地盤	折立（南三陸町、仙台市）
•ヌク（貫）	▶鉄砲水が突き抜ける所	六貫田（多賀城市）
•シロ（白）	▶津波や洪水で家が流失し、まっさらになる	白萩（東松島市）
•ハギ（萩）	▶洪水で建物や表土がはぎ取られる	

※宮城県地名研究会の太宰幸子会長調べ

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています

バス停名で地盤を探る

名大教授ら調査

名古屋大減災連携研究センターの福和伸夫教授、護雅史准教授らのグループは、名古屋市内の全バス停の名称を調査。既に分かっている地盤のデータと突き合わせると、良好地盤、軟弱地盤を指すことがある地名と地形の傾向が一致する割合が高かった。

（中村禎一郎）

「川」「池」「波」→軟弱

「山」「台」「岡」→良好

軟弱な地盤を表すことがある地名の漢字は大きく三種類に分かれるという。「川」「浜」「淵」「鴨（水鳥）」「貝」など水に関連する字、「久保」「谷」「低」など水がたまりやすい低地やくぼ地の表現、「田」「新開」「稲」など昔の田んぼを意味する例だ。

ただ、市街地では郵便配達の利便性などから地名が変更された場所も多い。例えば、災害とは関係ないが、名古屋市の「両替町」は現在の中区丸の内三丁目、かば焼きの店が並んでいた「蒲焼町」は錦三丁目に変わっている。

福和教授らは調査にあたり、まず古い地名を残す例の多い交差点や学校、駅の名前などに着目。しかし、いずれも数が少ない。そこで思いついたのがバス停。地域の偏りが少なく、住所にない通称名を今も使っていることが多いためだ。

調査の結果、「山」や「台」「岡」など良好な地盤に使われやすいバス停名は、丘陵地で良好地盤が多い名古屋市東部に集まる。一方、東部でも川沿いの地域や埋め立て地のある名古屋市西部では「川」「池」「波」など軟弱地盤を表すことがあるバス停名が多かった。

ただ、例外もある。縁起を担いで実際の地盤の高さとは関係なく「高」と名付けたり、海抜は低くても周りと比べて「上」と呼ばれる土地がある。名古屋市の「大須」のように岐阜県羽島市大須の大須観音が移転して名付けられ、地形とは関係ない地名もある。

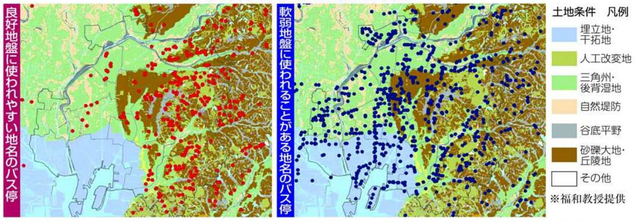
調査の結果、良好地盤を意味する漢字のバス停が実際に良好地盤にある確率は三百十四カ所中二百二十六カ所の72％。軟弱地盤を意味することがあるバス停が軟弱地盤にあるのは五百七十七カ所中三百七十八カ所の66％だった。

福和教授は「地名だけで災害の危険性を判断するのは難しい」と認めつつも、なじみの深い地名なら関心も湧くはずと指摘する。

「ハザードマップだけでは市民に分かりやすく地震の危険性を伝えきれない。地名から入り、旧地名や古地図まで調べるようになれば、身近な防災・減災につながる」

これらのデータは福和教授のホームページで公開。「福和伸夫」で検索し、「地名と地盤」の項目で見られる。

名古屋市内のバス停名と地盤の関係



※福和教授提供

良好地盤に使われやすい地名		やま	山、岳、嶽、峰、嶺、尾、根	山や台地は良い地盤 高・上は高さの指標（平面的な上に注意） 自然堤防は川、海沿いにできる少し良い地盤 傾斜がある所→山地や丘陵地→良い地盤 樹木が茂っている→水はけが良い→良い地盤
		台地	岡、丘、台、坂上、阪上	
		高・上	高、上	
		自然堤防など	崎、埼、碕、岬、塙、鼻	
		傾斜	坂、阪、段、乗越	
		植生	森、林	
軟弱地盤に使われることがある地名	水関連	河川	川、河、江、瀬	水に関連する名称 ↓ 水がそばにある ↓ 軟弱な地盤
		たまる	池、袋、湖、沼、淀、澱	
		湧く	泉、井	
		なみ	波、浪、潮、汐	
		浜辺・干潟	浜、洲、州、須、潟、須賀、須加	
		うみ	海、塩	
		水際	淵、縁、渡、島、岸	
		入り江	磯、浦、湾、入、杁	
		人工物	堤、橋、船、舟、津、港、湊	
		水の状態	水、浅、深、澄、淡、流	
		植物	葦、葭、蘆、芦、菅、蒲、荻、萩、蓮、藻、竹	
		水鳥	鴨、鷺、鶴、鵜	
		生物	貝、亀	
	低湿地	くぼ地	窪、凹、久保、坂下	低地・くぼ地は水がたまりやすい→軟弱な地盤 低・下は高さの指標（平面的な下に注意）
		低湿地	谷、沢、洞、迫、渓、湫、久手、泥	
		低・下	低、下	
	農耕地	田地	田、野、原、代	昔の田は水田を言う。かんがい技術がないころは水辺のすぐそばに田を作った。その後、干拓地などに広がる
		開墾	新開、墾、針、張、播、治、春	
		農作物	稲	

※福和教授提供

「備える！3・11から」販売中

本連載が「備える！　3・11から」のタイトルで販売されています。2011年５月の連載開始から約１年間分を再構成し、ビジュアルで読みやすくまとめています。Ｂ５判、オールカラー、224㌻、定価1600円（税込み）。書店にない場合は中日新聞出版部＝電052（221）1714＝へ。

次回は2月4日に掲載します。

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています